

# 日本スポーツ社会学会会報

# Sport Sociology

第22号

目次

第8回学会大会プログラムのご案内	1
研究委員会からのお知らせ	4
事務局からのお知らせ	5
図書紹介	5
新入会員/住所・所属変更	7

日本スポーツ社会学会

Japan Society of Sport Sociology

事務局 奈良女子大学 1999年2月

## 第8回学会大会プログラムのご案内

### ●特別講演

1. 日時 3月26日(金) 午後5時10分～6時40分
2. 場所 アステールプラザ(大会議室)
3. テーマ 「臨床哲学からみる身体/スポーツ」
4. 演者 養老孟司(東京大学名誉教授)

### ●公開シンポジウム

1. 日時 3月26日(金) 午後3時00分～5時10分
2. 場所 アステールプラザ(大会議室)
3. テーマ 「潤い/臨床/競い合い-スポーツへの新たなる期待」
4. パネリスト 児玉克哉(三重大学/日本平和学会理事)  
亀山佳明(龍谷大学/スポーツ社会学)  
高橋和子(横浜国立大学/体育科教育学)

#### <趣旨>

スポーツへの人間の接し方が変わりつつある。潤いの場として、身体接触のツールとして、勝敗よりも競い合いのコミュニケーションとして。一方で平和への希い、性の再生への期待も高まる。異なる臨床感覚からスポーツを論じてもらい、共に考えたい。

### ●理事会

1. 日時 3月26日(金) 12時00分から
2. 場所 アステールプラザ(小会議室)

### ●総会

1. 日時 3月26日(金) 午後2時00分から
2. 場所 アステールプラザ(大会議室)

### ●懇親会

1. 日時 3月26日(金) 午後7時00分から
2. 場所 アステールプラザ(大会議室)

●一般発表

A会場(大会議室A)

1. 9:00 ウォーキング・ブームの主体要因に関する実証的研究  
高峰 修(中京大学大学院)
2. 9:30 非営利団体における体育事業の運営 -戦後のスポーツクラブ活動実態を事例として-  
世戸俊男(大阪国際女子大学)
3. 10:00 地域における子どもスポーツへのコミットメントがコミュニティ・モラルに及ぼす影響に関する研究  
赤堀方哉(神戸大学大学院)
4. 10:30 子どものスポーツの社会化 -子どもスポーツの領域固有性-  
山本清洋(鹿児島大学)
5. 11:00 スポーツボランティア教育の効果に関する研究  
依田充代(日本体育大学女子短期大学)
6. 11:30 「川に学ぶ社会」に向けてのリバースクール社会実験に関する事例研究  
小谷寛二(呉大学)
7. 13:00 「等身大」メディアと長野五輪-南信・松川町のミニコミ誌『はこべ』を事例として-  
橋本政晴(筑波大学大学院)
8. 13:30 地元スキークラブが経験した長野五輪  
東方美奈子(筑波大学)
9. 14:00 高齢者Aの長野五輪  
松村和則(筑波大学)
- 10.14:30 自然の規範的構成と長野冬季五輪環境問題  
小椋博(香川大学)
- 11.15:00 長野冬季五輪開会式のテレビ放映にみるオリピズムの視線  
舛本直文(東京都立大学)

B会場(大会議室B)

1. 9:00 女子体育の形成過程に関する研究 -反省史的アプローチから-  
角田聡美(筑波大学大学院)
2. 9:30 体育/スポーツにおけるジェンダーと規範の生成  
谷口雅子(奈良女子大学大学院)
3. 10:00 メディア・スポーツ研究の動向と『九州一周駅伝』の報道  
山本教人(九州大学)
4. 10:30 オリックス・ブルーウェーブと阪神大震災に関する印刷メディアについて  
高橋豪人(奈良教育大学)
5. 11:00 祝祭としてのスポーツイベントと<反-近代>  
野崎武司(香川大学)
6. 11:30 定期的なスポーツイベントと地域形成 -Bayer 04 Leverkusenの事例-  
鈴木守(上智大学)
7. 13:00 力動山プロレスにおける興奮の探究  
飯山善昭(東海大学大学院)

8. 13:30 「柔道の競技化」-ルールの変化から見る嘉納治五郎の柔道-  
上水研一朗(東海大学大学院)
9. 14:00 ホイジンガとカイヨワの再考  
松田恵示(岡山大学)
- 10.14:30 臨床 -スポーツ社会学は何をすべきか-  
加藤朋之(山梨大学)
- 11.15:00 ノーマライゼーションからみるドーピングの解釈  
海老原修(横浜国立大学)

●ミニシンポジウム

1. 日時 3月27日(土) 午後3時45分~4時45分
2. 場所 アステールプラザ(大会議室)
3. テーマ 「スポーツ社会学の評価をめぐって -社会学者・体育学者双方の期待するスポーツ社会学-」
4. パネリスト 平野秀秋(法政大学)  
山下高行(立命館大学)
5. 司会 小谷寛二(呉大学)

●情報交換 (昼食時)

1. 日時 3月27日(土) 12時00分~1時00分
2. 場所 アステールプラザ(小会議室)
3. テーマ 「スポーツ社会学の魅力を探る」
4. パネリスト 東元春夫(京都文化短期大学)  
松田恵示(岡山大学)
5. 司会 小椋博(香川大学)

<会場へのアクセス>

1. 会場 アステールプラザ
2. 交通機関 JR広島駅南口・6番バス乗り場より、広島バス(赤縞模様)24番「吉島営業所」行きに乗り、厚生年金会館前で下車し、徒歩2分。

<大会事務局からのお知らせ>

参加申し込みの締切りが過ぎていますが、当日参加はもちろん、これからの申し込みも受け付けます。ぜひ、多くの方々の参加をお待ちしています。参加希望の方は、ファックスで大会事務局まで申し込んで下さい。ご不明の点がございましたら、下記までご連絡ください。

大会事務局 TEL&FAX(0824)24-7153(東川)

## 研究委員会からのお知らせ

今年10月7～11日、東京大学駒場キャンパスで開催される日本体育学会第50回記念大会に、日本スポーツ社会学会も参加団体として名を連ね、組織委員会の要請でいくつかのシンポジウムに協力することになっております。第4回の理事会の決定に基づいて、森川が窓口で進めておりますが、とりあえず現時点(2月10日)でわかっていることについてお知らせします。

### (1)日本スポーツ社会学会および日本体育学会との共催シンポジウム(事実上は単独)

①テーマ 「賭けとスポーツ」

②日時 10月8日 13:00～15:00

③設定趣旨

歴史的にみると、賭け・ギャンブルは普遍的な文化であり、今日では世界の多くの都市においてカジノが合法化されているようにそれらを罪悪視する風潮は後退している。しかし、我が国では最近のサッカーくじ法案の成立過程に見られるように、今もなお「悪」のイメージをもって語られる場合が多い。このように、賭けはスポーツの領域を越えてわれわれ人間・文化理解に多くの問題点を投げかけている。そこで、このシンポジウムにおいて、次のような問題点をめぐって討議することに意義があると思われる。①人間にとっての賭けの持つ意味、②スポーツの歴史にみる賭けの取り扱われ方、③スポーツにおける賭けと文化的・法的意味との関連性。(亀山)

④日本スポーツ社会学会担当理事

コーディネーター 亀山研究担当理事

⑤詳細については総会時に亀山理事より提案されます。

### (2)日本スポーツ社会学会および日本体育・スポーツ経営学会(以上が幹事学会)、日本体育学会との共催シンポジウム

①テーマ 「地域とスポーツ活動-総合型地域スポーツクラブと地域社会の可能性-」

②日時 10月7日 15:30～18:00

③設定趣旨

現在その推進が課題となっている「総合型地域スポーツクラブは新しい地域社会や地域スポーツを拓くことが可能か」が本シンポジウムの課題である。改善されない都市化現象、高齢化や小子化の進行、完全学校週五日制の実現等々地域社会は多様な課題を生成させながら大きく変容しつつある。そのような地域社会の変容に対応した総合型地域スポーツクラブの機能問題や可能性、またその形成と発展をめぐるマネジメントの課題について検討する。(中澤)

④主幹事

中澤真氏 (日本体育・スポーツ経営学会、筑波大学)

⑤詳細については調整次第報告します。

(3)その他「子どもの心とからだの発達と社会的反映」のテーマで日本運動・スポーツ科学学会、日本スポーツ心理学会、日本学校保健学会との共催シンポジウムの協力を要請されていますが、現時点では具体的に提案できるものはありません。

## 事務局からのお知らせ

A4版の名簿が同封されていることと思います。名簿作成にあたっては、会員の皆様からの葉書をもとに慎重を期して作成したつもりですが、もし間違いや訂正等がありましたら事務局までご一報ください。なお、名簿作成のための葉書を返送していただかなかった会員の住所等は、原則として前回の名簿のままになっていますのでご了承ください。

## 図書紹介

黄順姫著 「日本のエリート高校 -学校文化と同窓会の社会史-」

世界思想社 1998

本書は日本のエリート高校について学校文化と同窓会に焦点を合わせた研究である。ここでエリート高校とは、次の三つの条件を前提にしている。すなわち、学校の文化的、社会的威信が高く、卒業生の多くを社会の各分野でエリートとして活躍させる比率が高く、学校間の学歴に基づいた位階制の高位に位置づけられるという条件を満たすことである。そしてエリートは、全体社会において優れた内的あるいは外的属性をもちリーダーシップの機能を通して、全体社会の構造により強い決定力を持っている機能的集団である。このエリート集団は、独自の文化様式を有し、集団意識と自律性を維持している。

著者は1988年から1998年までの11年間、エリート高校のフィールドワークに従事した。福岡県に所在する県立修猷館高校を選定し、重点的に調査を行った。その後、他のエリート高校の学校文化とどのような共通点、相違点をもつのかを念頭において分析するために、県立の福岡高校、水戸第一高校、私立の久留米附属高校の調査を行った。そしてそこから、日本のエリート高校の学校文化と同窓会の社会史を描こうとした。

本書の全体にわたって採用した研究の方法論は次の四つに特徴づけられる。

第一は、学校文化の捉え方において従来の研究と次の四点で異なることである。(1)学校文化の研究に「身体文化」の概念を取り入れ、生徒と教師が学校文化を自らの身体に刻み込み、習慣化していくところまで視野を広げた。そして、同窓生が在学時代に身

体化した学校文化を、卒業のちに自らのライフ・ヒストリーのなかでどのように強化・変革していくのか、また、身体化された学校文化を知覚しうかに同窓生アイデンティティを構築するのか、を分析しようと試みた。(2)学校文化をとらえるさいに、同窓会との関連から学校をみる視点を新たに取り入れた。(3)学校文化の研究にマクロ・ミドル・ミクロレベルのどれか一つに準拠しないで、社会史の方法を用いて、これら三つのレベルの枠を超え、総合的にとらえた。(4)学校文化の研究に共時的観点だけでなく、通時的観点を加えて分析した。生徒と教師が学校に伝統として規範化されてきた運動会、文化祭などの儀式的行事、神話、時間・学年などの象徴的戦略および対人戦略を駆使して学校文化を再生産していく過程を分析した。

第二は、ピエール・ブルデュール、バジル・バーンステイン、ゴッフマンの理論から大いに学び、それを使って学校文化に関する研究を進めた。第三は、学校文化の再生産と変動の両方をあつかった。エリート高校で学校文化が断絶し、まったく新しい学校文化の変容が生起する実状を記述・分析することを試み、そこから、文化的再生産が維持できず、文化の変動が発生する構造的条件をみいだした。第四は、学校の文化における「伝統の発明」をとらえた。エリート学校において伝統は守るべきものであり、卓越性の象徴である。著者は戦後文部省の教育改革が推進されるにあたり、学校はそれを変容しつつ、ときに抵抗を織り交ぜ、生徒と教師の組織は闘争と合意を繰り返しながら、いかに伝統を発明していったのか、という政治的ドラマを分析した。

本書はエスノグラフィーを分析技法にした一つの日本社会論、日本文化論、日本のエリートの身体論でもある。本書の構成は以下の通り。(黄順姫)

目次	第四章 同窓会の学校文化におよぼす象徴的権力
まえがき	一 主題の設定
第一章 家族の文化による学校生活への適応過程	二 象徴的権力をめぐる同窓会と学校の関係構造
一 主題の設定	三 同窓会の象徴的権力のメカニズム
二 学校生活に関する表象	第五章 同窓会アイデンティティの構築
三 交友関係の形成	一 主題の設定
四 学校行事に取り組む姿勢	二 同窓生の地域的移動、「場所愛」とアイデンティティ
五 教師との接し方	三 「故郷」の発展と同窓生の象徴的地位
六 大学の学部・学科に関する「自己選別」	四 過去の「拡張された学校的空間」の喪失とアイデンティティ
第二章 ハビトゥスの変容による学校文化の共有	五 同窓生アイデンティティと時間
一 主題の設定	六 アイデンティティ・シンボルとアイデンティティ操作
二 家族におけるハビトゥスの形成	第六章 伝統としての学校文化の断絶・創出
三 ハビトゥスの形成過程とハビトゥス様式	一 主題の設定
四 学校文化の共有	二 学校文化の断絶・創出の外在的構造
第三章 ハビトゥス戦略による学校文化の再生産過程	三 学校内部における文化の断絶・創出のドラマ
一 主題の設定	
二 象徴的戦略論	
三 対人戦略	
四 文化葛藤と危機状況の認識	
五 戦略の修正と文化の再生産	
	あとがき
	引用・参考文献
	索引

## 新入会員

氏名	住所	TEL FAX	所属
リクゲアキラ 則武明			
ヤマナカシツガ 山中鹿次			スポーツライター (学習研究社中心に)
タニグチキヨ 谷口輝世子			デイリースポーツ社
オカモトキヨミ 岡本浄美			愛知大学 体育研究室
カワモトカコ 川本裕子			
ファンソウシン 黄盛彬			立教大学 社会学部
カンギョウトモヲブ 勸行智信			立命館大学大学院
ハトリコウジ 服部宏治			広島国際大学 保健医療学部
木佐貫久代	嶋香織	田中鎮雄	山本学

## 退会者

## 編集後記

今年に入って、いよいよ世紀末の気分が漂ってきました。歴史上、世紀末に繰り返される終末思想の隆盛にも見られるように、この暦の区切りには、これまでを振り返り、これからを見通してみることが、生命のリズムを創り出す人類の知恵として求められるようです。近代社会と密接に関わって発展してきたスポーツと、近代社会の自己反省として育まれてきた社会学の出会い、これまでに何を生み、またこれからどのような可能性に溢れているのか。スポーツや社会の変容をめぐる昨今の諸事象をまえにして、ワクワクしながら考えてみたいと思います。

広島での第8回学会大会が近づいてきました。多くの会員のみなさまにお会いできることを楽しみにしています。(K.M)

### 日本スポーツ社会学会会報 第22号

平成10年6月22日発行  
日本スポーツ社会学会事務局  
(奈良女子大学文学部内)

●学会への連絡、および入退会、住所・所属変更、会費納入、その他各種手続きに関しましては以下までお願いいたします。

#### 日本スポーツ社会学会事務局

〒630-8263 奈良市北魚屋西町 奈良女子大学文学部内

事務局長 江刺 正吾

庶務・会計 菊 幸一

●会報への投稿に関しましては以下までお願いいたします。

〒700-8530 岡山市津島中3-1-1 岡山大学教育学部内

会報 松田恵示

## 入会申し込み書

(※事務局へご返送願います)

ふりがな 氏名：	会員種別 (どちらかを○印で囲む) 正会員・学生会員
紹介者： (推薦人) ※必ず明記してください	専門分野：
勤務(所属)先：	
勤務(所属)先住所：〒 TEL ( ) FAX ( )	
連絡先住所：〒 TEL ( ) FAX ( )	
E.mail： _____	

# 大修館書店

〒101-8466 東京都千代田区神田錦町3-24 電話03-3294-2221代  
 価格は税別です。

## 大修館書店創業80周年記念出版 民族遊戯大事典

大林太良・岸野雄三・寒川恒夫・山下晋司 編集  
 文化人類学・スポーツ人類学の新進・ベテラン執筆陣95名の力作を納め、多数の貴重な写真を駆使した、見て、読んで、楽しい事典。  
 ▼菊判・600頁 本体9,800円



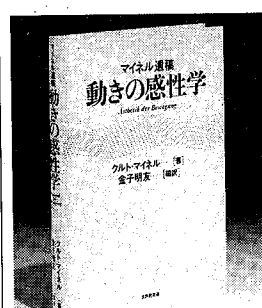
## テニスの源流を求めて

表 孟宏 編著  
 謎の多いテニスの源流解明に光をあてた、関係者待望の書 / 未だ不明なテニスの起源と源流を解明した基本的な外国文献7篇を初邦訳。「日本への伝来」も加えて集大成。  
 ▼A5判・468頁 本体4,200円



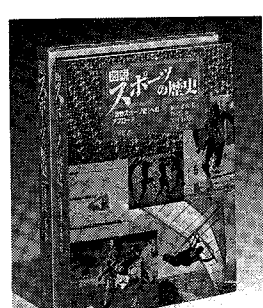
## マイネル遺稿 動きの感性学

クルト・マイネル 著 金子明友 編訳  
 動きの感性教育の重要性と必要性を説いた遺稿を、生涯百年を記念して運動学の第一人者が世界に先駆けて邦訳。  
 ▼A5判・96頁 本体2,900円



## 図説 スポーツの歴史

《世界スポーツ史》へのアプローチ  
 稲垣正浩・野々宮徹・寒川恒夫・谷釜了正 著  
 人間にとってスポーツとは何か。歴史的視点からその「現在」と「世界性」を問う。オールカラー  
 ▼B4変型判・206頁 本体18,000円



## 体育学講義シリーズ スポーツ社会学講義

森川貞夫・佐伯聰夫 編著  
 ▼菊判・266頁 本体1,900円

## 現代社会とスポーツ

P・C・マッキントッシュ 著  
 寺島善一・岡尾恵市・森川貞夫 編訳  
 ▼A5判・240頁 本体1,748円

## 現代スポーツ批判

大野晃 著  
 ▼四六判・234頁 本体1,600円

## 日本の スポーツ環境批判

中村敏雄 著  
 ▼四六判・258頁 本体1,600円

## 現代スポーツ論

→スポーツの時代をどうつくるか

中村敏雄・出原泰明・等々力賢治 著  
 ▼四六判・306頁 本体1,800円

## スポーツ産業論

松田義幸 著  
 ▼A5判・200頁 本体2,800円